

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 062	提案機関名 神奈川県 畜産課
要望問題名 ドローンを用いた畜舎周囲の監視体制の構築について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病が発生する原因の一つとして、野生動物による媒介の可能性が示唆されている。本県において、畜舎周囲に野生動物が接近する事例が相次いでおり、防護柵や防鳥ネット等により畜舎を囲っているものの、破損等により侵入を許す可能性がある。生産者の責務として、破損等が見られた場合は速やかに修繕等を行う必要があるが、破損等の状況を確認するための見回りは労力がかかり、生産者を圧迫している。 かながわ鳥獣被害対策支援センターにおいて、鳥獣被害対策としてドローンを活用した集落環境調査を実施しているのは承知しておりますが、この技術を活用して、ドローンを用いた自動的な畜舎周囲の監視体制を構築し、生産者が防護柵破損等の確認にかかる労力を大幅に軽減すると同時に、野生動物を発見した際に追い払えるような器具をドローンに装着し、ウイルスの畜舎内への侵入リスクを低減させる方法の開発を要望する。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター    ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施   ②実施中   ③継続検討   ④実施済   ⑤調査指導対応   ⑥現地対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	ドローンによる集落環境調査は昼間に行われ、風雨のときや夜間には利用が難しいようです。畜舎周辺の監視方法としては、インターネットに接続可能な環境であれば、遠隔監視カメラを設置する方法が、天候に左右されず、夜間は赤外線カメラを利用することで効果的な監視が可能です。またイノシシなどの夜間に活動する野生動物を発見することもドローンでは困難です。ドローンを利用した野生動物の被害対策については、多くの知見をもつ、かながわ鳥獣被害対策センターにお問合せ下さい。		
解決予定年限	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考	・鳥獣被害対策に活用出来る機器情報 （農林水産省 <a href="https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/kiki_jouhou/kiki_jouhou.html">https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/kiki_jouhou/kiki_jouhou.html</a> ） ・鳥獣対策（九州農政局 <a href="https://www.maff.go.jp/kyusyu/kikaku/tyozyu.html">https://www.maff.go.jp/kyusyu/kikaku/tyozyu.html</a> ）		